



発行所 島根日日新聞社 〒693-0001 出雲市今市町743-22

山陰あれこれ

86

令和2年4月24日掲載予定

## 『広報海士』連載終了のこと

酒井 董美ただよし

『広報海士』とは、この名称から想像できるように、隠岐郡海士町の役場が発行している隔月刊の広報紙のことである。筆者はこの広報紙に平成22年(2010)の3月号から今年の3月号までの間、口承文芸を連載していた。最初は「海士町の民話から」(49回・平成30年3月号まで)、続いて同年5月号から「海士町の伝承歌から」(12回)の2種類である。役場発行の広報紙が取り上げてくれたのには、やはりそれなりの理由がある。筆者の「海士町の民話から」に出した「連載スタートにあたり」を再掲しておく。

30年以上も前の部活で得た本町の民話は、貴重な無形文化財です。そして町関係者がこれらの民話を知ることには、ふるさとを見直すためにも意義のあることと思います。

当時の高校生が集めた民話は、決して色褪せるものではありません。また、語ってくださった方を思いつつ、これらをこれからのまちづくりに活かしていただければ、指導した者としてこんなうれしいことはありません。

なお、本連載では資料的価値を損なわないよう、語り手や聞き手の名前、収録年月日を明記しました。発表させていただくことは、事前にご了解いただいております。(酒井 董美)

昭和50年(1980)度から松江市立女子高校へ転勤するまで、筆者は県立隠岐島前高校教師であり、郷土部顧問として生徒たちと、島前、島後を含めた隠岐島全域の口承文芸(民話、民謡、わらべ歌など)を収集、『隠岐島の民話』などの同高校郷土部誌に発表していた。集めた結果は民話344など全部で449になる。これらの活動がマスコミの知るところとなり、取材を受け、NHKラジオでは昭和52年10月3日・5日・12日の3回にわたって(内容は再放送と同じ)「青年期の探求(クラブレポート2)」として全国放送されたり、『中国新聞』でも昭和53年1月1日の紙面に「昔ばなしの世界」として特集されイラストまで引用して報道されたりと、けっこう華々しく扱われていたこともあった。

しかし、歳月の経過はいつしかそれらの成果も忘れ去られるまま終わってしまうので、このままではせつかくの無形民俗資料も失われてしまうだけであり、何とかしなければならぬと当時の部顧問としての筆者は責任を感じていた。そこで役場広報編集担当者として話し合っただけでなく、こうして実現したのであった。

掲載の体裁は、民話、伝承歌(わらべ歌と民謡)そのものの紹介に併せて、海士町出身で埼玉年在住の福本隆男氏のイラストを入れ、解説は筆者が担当し。1ページの分量を使っている。連載回数が収録数よりかなり少ないように感じるが、それは語り手は違っても同じ内容の民話をいくつも聴いたり、中途半端なものも捨て、形の整った話を代表話例に選んでいるからであり、伝承歌も同様の理由によるものである。

全国の町づくりの先端を行く海士町である。他道府県からのインターンの住民も多い。町外から隠岐島前高校に留学する生徒もかなりいる。そのような人たちに過去の高校部活動で集めた無形民俗文化財を理解してもらおうことが出来、筆者は役場の対応に感謝しつつ、安堵して連載を終了したところである。(元島根大学法文学部教授)

